

色即空

しきそくぜくう

色はすなわち

実体のない空であり



私達は、形あるものを不変で実体のある存在と考えがちです。しかし、どんなものであろうと、不変ということはありませぬ。たとえばどんなに大きな山であっても、それは長い年月の中で大地の変動や噴火により生まれてきたものです。そこに山としてもともとあったのではなく、多くの縁によって生じ、変化してきたものといえるでしょう。

このように形あるものは、どんなものも決して不変ではなく、固定的な実体がないもの——すなわち空くうなのです。